

ローシは自分の居場所がないように
感じることにうんざりしていました。



ローシのいのり

ルーシー・スティーブソン・イーウェル

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、アメリカ合衆国での出来事です。

ローシはリュックをゆかに落とし
ました。新しいクラスになって2日
目が終わったばかりです。その日は、あ
まり良い日ではありませんでした。

「どうしたの？」とお母さんが聞いてき
ました。

ローシはソファにへたりこんでいま
した。「クラスの何人かが、わたしにいじ
わるなことを言ってきたの」と言います。

「はだか茶色いって。」

学校にローシと同じ色のはだの人はあ
まりいなかったの、自分には居場所が
ないと感じていました。それに、からか
われたので、100倍気分が悪くなりました。

お母さんは心配そうな顔で「かわいそ
うに」と言ってローシをだきしめました。
「わたしから先生に話すわね。」

ところが次の日、学校で、ローシはま

たからかわれたのです。クラスの一人の
男の子などは、一日中ローシにいじわる
をしてきました。

ローシは悲しくなりましたし、いかり
も覚えました。その男の子の失礼な態度
に対して、時々言い返しました。でも、そ
れで気分が良くなるわけではありません
でした。

ある日、ローシは学校から帰ると、ま
すぐに自分の部屋に走って行きました。

からかわれるのはもううんざりです。居
場所がないことにもうんざりしていま
した。まくらに顔をおしつけて泣きまし
た。

「わたしはいったいどうしたらいいの」
とローシは思いました。学年の終わりま
ですとこんな気持ちでいたくはない
と思いました。

ローシはなみだをめぐいました。そ
れから、本棚にあるイエスさまの小さな
ぞうを見上げました。お母さんが、イエ
スさまを思い出せるように、ローシにプ
レゼントしてくれていたのです。

おいのりした方がいいかもしれない、
とローシは思い、ひざまずいて、うでを
組みました。

「愛する天のお父様、わたしの心はほ
んとうにきずついています。わたしのは
だが茶色いせいで、クラスメートがいじ

わるをしてくるのです。それがいやでた
まりません。どうぞ助けてください。」

自分の気持ちを天のお父様に話して、
良い気持ちを感じました。主が聞いてく
ださっていることが分かりました。やわ
らかい毛布に包まれているように、温か
い気持ちが出て、愛されているのを感じ
ました。自分のはだの色は美しいと感じ
ました。自分は神様の子供で、神様は
自分を愛してくださっています。

いのり終わると、ある考えがうかびま
した。もしかしたら、学校でもっと何か
できることがあるかもしれません。

翌週、ローシとお母さんは学校の責任
者に、教室での出来事を話しました。
ローシは、いじめを受けている学校のほ
かの子供たちをさがし、その子たちと友
達になりました。ローシは男の子がから
かってきても無視するようにしました。
日曜日は教会で、天のお父様はすべて
の人を愛しておられることをあかししま
した。

学校での事はすぐには良くなりませ
んでした。でも、つらいときには、ローシ
はいのりしたときに感じた気持ちを思い
出しました。ローシは神の子供であり、
愛されていました。それを知っていたの
で、何でもできたのです。●



人種差別を なくすための ローシのヒント

人種差別とは、はだの色や生い立ち
のせいで不当なあつかいを受けること
です。あなたにできることをしょうか
いします。

- 自分が神の子供であることをわす
れない。
- だれに対しても、愛と親切と敬意を
もってせつする。その人たちも神の
子だということをわすれない。
- いじめられたり、いじめられたりし
ている人を見た場合は、大人に話
す。自分を守るけれども、自分が
受けたのと同じ不親切なことをや
り返さない。
- 経験したことを、ほかの人に話す。
ひとりではないことを知ってもらう。
- 不当なあつかいを受けている人を
守る。彼らと友達になる。



イラストレーション: J.C. ENT